

幼児の「時」の概念と童話について

内 山 憲 尙

一

原始民族が、自然界或は人文界の諸現象のうち關心を持ち注意をひくものを、彼等特有なる思考や感情（ジョン・フイヌはこの思考感情を未開心—Uncivilized Mind—と云つてゐる）によつて説明し、若くは敘述した民族發生的な話をメルヘン（Märchen）——小話又は説話と譯してゐる——と云う。

メルヘンはその成生當時にありては原始人が『眞』と信じ信賴を持ちあるものは信仰の形にさえあつたものである。文化が進み科學の發達するに伴つて、成人の信賴を失つて、この話を兒童がよこびろ受け入れる様になつて所謂『童話』となつたのである。

メルヘンに於ける『時』に關する觀念中その特徴とも見る可きものは次の三つである。

時間的超越

時の錯誤

現在型の表現

一、時間的超越

メルヘンの特徴として（イ）時の缺除（ロ）所の不明（ハ）人の不正確（ニ）不思議な要素を伴う（ホ）短い形であると云う五つのものがあげられる。即ち、むかしむかし、（時）あるところに（所）爺さんと婆さんがありました（人の不正確）で始まつてゐる。或は「今は昔」に始まつたよ、外國でも Once upon a time,..... In the old days....., Long time ago....., In den Alten Zeiten と云う冒頭になつたよ。

曆のなかつた時代であり、且メルヘンが原始民族の想像的敘述の所産であるために時の明示をすることが出来ないのは當然ではあるが、彼等の生活そのものが時間を考慮する必要がなく、時間を超越した日々々の生活を續けて來ていたのである。

二、時の錯誤

人間の生命の有限なるに對して、宇宙の生命の永劫を意識して來るにつれて、無窮なる時の流れに不思議さと魅力を感じるようになる、この無限に對するあこがれが、説話を感ずるようになる。

の形式を以て表わされて来る。

天空をかける白馬（ベガサスの如き）自由に且瞬にして數千里を走る飛行の術（孫悟空の如き）一夜の内に城廓を數千里の地に移す魔術（アラビアンナイトの如き）時間的錯誤を平氣で實現しているものである。

その中で代表的なものは『仙郷淹留傳説』である。日本では浦島傳説がよく知られている。

浦島傳説は『日本書紀』『圓後風土記』『萬葉集』等に見えているが、三ヶ年間龍宮に遊んだ、玉手箱を土産に貰い歸つて見たが家もなく、玉手箱をあげたら白髪の人となつたと云うのであるが、後世には三百年を経過していたと年數を明示してあるものが多い。水鏡には三百四十七年と記し、神明鏡には三百七十餘年となつてゐる。臺灣では生蕃アミ族の間に類似の傳説が二つばかりある。

奇密社の方にはサグバンと云う者が漁に出て、女ばかりの島につき、二三日と思つたが歸つて見ると誰一人知る人もなかつたと云うのである。

南方ではマライの神話として、スラン王が龍宮見物に出かけ、その王女と結婚して三ヶ年間いるうちに三人の男子が生れと云うのがあるがこれは時間的な錯誤はない。

支那の淹留傳説は『搜神後記』と『續齊諧記』にあるが、

外國には各民族に同型の説話がある。その二三のものを

あげると、スコットランドの傳説に結婚式後、黒衣の男にいざなわれて、小さいローソクの燃えさしが消えるまで持つて立つていたが、それが二世紀を過ぎていたと云う話がある。

一層長いのはブリトン人の王ヘルラが、小人國を尋ねて三日、歸る時に小犬を與えてこの小犬が、だかれている人の手から自分とび出すまでは馬から下りてはいけなないと云われ、歸つて見ると二世紀を経過していた。

三、現在型の表現

すべての説話は『むかしむかしあるところ』で始められているが、事件はすべて現在型を以て表現されている。古事記を見ても

天地の初發の時、高原に成りませる神の名は天之御中

主神

とあるが如き、或は舊約聖書にしても、パンチャタントラにしてもすべて現在型で書かれている。

二

幼児に於ける『時の觀念』は空間の觀念よりもよほど明瞭を缺いていて、一日の時間についても又は日の關係についてもはつきりした觀念は持つていない。

朝飯を何時にたべ、何時に幼稚園が終るか或は今日とか昨日と云う意味が理解出来ないで『あしたお母さんと三越へ行つたのよ』とか『きのうお父さんに玩具買つて貰うたよ』

とか平氣で使用している。

幼児の生活に於ては一日の時間を考える必要がないのであつて、御飯が出来れば母親が『御飯ですよ』と聲をかけてくれた時に食卓に坐ればよいし、幼稚園からは先生が『お歸りにしましょう』と時間がくれば歸してくれるのである。

昨日どんな事件が起つたと、昨日のことは昨日のことであり、明日どんな仕事をするかと云う約束や、やらねばならぬ仕事があるわけではない。

彼等は時間を考え、日を考慮することは要らない、即ち時間や日々しばられることなく時を超越した生活をしているのである。

ポールドウィンとステッチャー (T. Baldwin and I. Stecher) が、『入學生の幼児の心理學』(The Psychology of the Preschool Child P. 165—169) で幼児の時の觀念の調査をしてゐる。

A 短い時間の觀念

- 一、今日は何日ですか
- 二、今は午前ですか、午後ですか
- 三、午後はいつから始まりますか
- 四、今から明日までは何時間ですか
- 五、明日は昨日の前ですか、後ですか
- 六、一日は何時間ですか
- 七、朝起きてたべるのは何御飯ですか
- 八、幼稚園から歸つてたべるのは何御飯ですか

九、寝る前にたべるのは何御飯ですか

一〇、時計の時間がわかりますか
一一、一二、一三、今打つのは何時ですか (九時、二時、五時とかを打つて云わせる)

一四、今何時ですか

一五、以下二十四まで同様の問題あり。原稿紙敷制限の都合で略

B 長い時間の觀念

一、今は何月ですか

二、今日は何月何日ですか

三、今年は何年ですか

四、この繪でどれが若いですか (三枚の年齢のちがつた人物によつて云わせる)

五、この繪では (赤ン坊、若い人、成年、老人の繪を示して云わせる)

六、お母さんとお祖母さんとどちらが年々といつていますか

七、あなたは何年たつたら大人になりますか

八、先生はあなたより若いですか

九、あなたはいくつですか

一〇、お誕生日はいつですか (何日生れたか)

一一、お誕生日からどの位すぎましたか

一二、次のお誕生日はいつ來ますか

一三、クリスマスは何日たつたら來ますか

一四、今は夏ですか、冬ですか

一五、寒いのは夏ですか、冬ですか

一六、木の葉が青くなるのは秋ですか、春ですか

AとBについてそれぞれ調査をした結果次のような正解表

を掲げてゐる。

正答パーセント

	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳
A	一、三	二、九	五、四	六、八
B	一、五	二、五	四、八	六、二
計	一、四	二、八	五、三	六、六

これを日本の子供にも試みて見ることにして、日本の子供に理解出来ない問題をのぞいて、A十三問題、B七問題として、私の幼稚園児に尋ねて見た結果は次のようなものであつた。

	4 歳	5 歳	6 歳
A	二、九	二、五	七、八
B	二、六	二、一	五、八
計	二、八	二、八	六、八

大體アメリカの子供の場合と同じような数字が出てゐるが、これは問題がやさしいからで、實際に於ては外國の子供よりは時間觀念については少しおくれいてゐると云うことが考えられるのである。

とに角、日本の子供にしても、外國の子供にしても、時間觀念については不明瞭な状態にあると云うことがわかる。

次に幼児の時間的錯誤については、彼等の日常生活に於ても時々見られる。二三の例をあげて見ると

(1) 六月の末のこと垣根に咲いてゐる草朝顔を見つけて、『ヤ、朝顔が咲いていら』

『朝顔はこの頃咲かないよ、夏にならなければ……』と云うと『それじゃ、キット、去年の朝顔だよ』

(2) 藤ちゃん(六歳)と外の子の話

『君んとお婆さん、いくつだい』

『六十一だよ』

『ずい分長く生きてゐるんだね』

(3) 上野の動物園の歸り西郷盛盛の銅像の前で、

『お國のために、立派な働きをして、よの中のためによいことをした、えらい人は銅像になります、皆様も銅像になる様えらい人にならなければなりません』

『僕、銅像になりたくありません』

『どうして』

『だつて、あんな長い間立つてゐると足がくたぶれるもの』

幼児の自由に創作する童話を見ても、全く時間を無視したものが多のである。

(1) 河合甫夫(五歳七ヶ月)

太郎さんと次郎さんとがお山へ出かけたの、暗くなつたから、歸ろうとして、二人がちがつた道を行つて、どんどん行くと、二人が一緒になつてしまつた。又どんどん行くと、はじめのところが

へ来てしまった。これじや駄目だと又行くところへ来たの、そこにとても大きな穴があつて穴の中に兎が一匹いたの、その兎は齒がないんだつて、木の上でお猿がいて栗を喰べていたんだつて、それを見ていると、向うから熊がやつて来たの、こんどは赤いものが来たの、それは金太郎さんだつた、熊が『金太郎なんか強くない』と云つたので、『ちやおすもうをとるう』と、とつたの、するとやつぱり金太郎が勝つたんだつて。

(2) 入江 宏(六歳)

お山に一軒お家があつたんだつて、兵隊さんのぼつて来て、一人だけ家はいつて、みんなは木にのぼつて遊んだんだ。鐵砲打つたのもう彈がなくなつたから、こんどは汽車にのつて勳章を買いに行つたの、おもちや屋さんへ行つたら鐵砲の彈があるよと云つたので、彈を買つて歸つたら、おもちやの彈だつたんだつた。

(3) 谷岸 博(六歳二ヶ月)

原つばに牛がいたの。太郎と花子が来てお乳から、お乳をのんだんだつて、それからず——と来たら、汽車がとまつていたのでそれにのつて、大阪へ行つたら飛行機があつたの、プロペラのところのつたら、ブーンとまわつて、おとされてしまったの。見たら海の中なの、およいで島に来たら、船があつたの、それで、大きい島に来たら、そしたら、太郎が、どぶの中におつこちでしまつて、『たすけてくれ——』と云つたら、あひるが来てたすけてくれたの。

以上の自作童話を見てもわかる通り幼児は全く時間に捉われず、時間を考えていないのである。

次に幼児の時間的觀念の特徴は、過去と未來とがなくなつた。現在のみの生活が續いていると云うことである。もし過去と未來とがあるにしてもそれは極めて不明確なものであり、それは意識されて用いられ考えられていない場合が多い。晝になつたからお辨當をたべるのではなく、お辨當をたべるからお晝が来たのである。夜になつたから寝るのではなく、寝るから夜になつたのである。

時によつては過去も未來もみんな現在と考へている。否現在を中心として、それからのいくらかまへのはみ出しが過去であり、後のはみ出しが未來である。幼児の生活の中心はどこまでも現在であると云うことが出来る。

三

以上、童話に於ける時に關する特徴と、幼児の時の觀念について個々に述べたが、この二者の間には相關連し、類似のものを見出すことが出来る。

時間の點に於て、民族と幼児との間に約説原理を發見することが出来る。

學問的に立證するにはあまりに貧弱であつたかも知れないが、狙いは、童話を今少し深く掘り下げて幼児の心理に立脚し、童話の學的な立場に立つて研究する氣分を作つて行きたいことである。

從來童話があまりにも保育の上に軽く取り扱われて居る傾向があつた。無考に研究もなく、幼児に與え(六頁へつゞく)

疹、赤痢、水痘、猩紅熱、デフテリヤ、及び腸チフスの順になつて居る。

これらの傳染病を、それ／＼の病氣毎に度数分布と百分率にして、罹病年令をしらべて見ると、これらの病氣の中、百日咳は、大體滿二年迄の子供に多く、その後、漸時減少する傾向を見せて居る。麻疹と水痘は、滿一年から二年迄の子供に多く、その後漸時減少している。赤痢とデフテリヤは滿二年から三年迄の間が最高を示し、猩紅熱は、滿四年から五年の間が最高となつて居る。チフスは確定的な事は申せないが、年令が長ずるに従つて多い様に思われる。

この罹病年令に差がある主な理由としては、それ／＼の傳染病によつて、先天性免疫の程度が、違ふという事が挙げられると思う。例へば麻疹に對する免疫體の方が、百日咳に對する免疫體よりも生後長い間、發病を免れる事が出来る位のも、各月毎に、度数分布と百分率を見ると、百日咳は七月、麻疹は五月、赤痢は七月から九月、水痘は一月、猩紅熱は五月と十月、デフテリヤは十一月、腸チフスは、先づ八月が最も多い様に見受けられる。

この罹病時期に差がある主な理由としては、それ／＼の病原菌が力を得るのに適當な環境と身體の條件の不利、例へば夏は胃や腸、冬は鼻や咽喉が悪くなり易いという様な事が、考へられる。

罹病年令については、外國でも、大體同様な結果が出て居る

が、罹病時期については、我が國の報告に於ても多少食い違ひがあるばかりではなく、時ならぬ時期に流行を見る事もある。

この罹病年令からみると、他のこれらの急性傳染病が、乳幼児に多い事は、これらの年令の子供を取扱う人達に取つて、殊更、關心を深める必要があると考へられると同時に、この急性傳染病が、どういふ時期に多く發生するかを知つて、その流行期を迎える前に、適當な豫防措置を講ずれば、幾多の幼児を、その禍いから救ふ事が出来るかと考へる。

豫防措置としては、體力を増強したり、傳染徑路に氣をつける他に、デフテリヤや、猩紅熱に對しては、アナトキシン、赤痢、腸チフス、百日咳に對しては、ワクチンを流行期を迎える一、二ヶ月以前に豫防接種しておくのが好いと思う。麻疹や水痘に就いては、色々、研究されて居るが、未だ確定的なものはない。アナトキシンやワクチンにしても、これを接種すれば決して罹らないで済むというものでもないが、豫防接種をしてこれらの病氣に關心を持たせる事が、より大切かと考へられる。

以上誠に、小さな調査ではあるが、幼児の幸福な生活の爲に努力していただける皆様方に、私共の立場からの一面を御報告申し上げて、御批判と御考慮を乞おうと考へた次第である。

(十五頁より) られていた傾があつた、もつと眞劍な態度でとり上げて、眞に幼児の魂の糧とすることを心から祈る次第である。